**お便り**

**2019(令和元)年** **11月**

**宮内** **専念寺**

 **報恩講（お取り越し）**

**１２月８日（日）昼席1時～３時**

**９日（月）前席８時、後席１０時**

**・お斎**…**１２時１５分～１時終了予定**

**御講師　龍口** **明生師（龍谷大学名誉教授）**

**いよいよ報恩講、どんな御仏事よりも大切に迎えられてきた報恩講、我々真宗門徒が一年で最も重要な行事として各地でお勤めされています。**

**みなさま、万障お繰り合わせの上、御参りいただきたく存じます。**

**尚、９日御満座にはお斎（昼食）を用意しております。仏教婦人会会員さんによる心づくしをいただいて下さい。**

  **※ご報謝いただけます方は、下記のようにお願いします。**

  **○小菊（仏前にお供えする盛り花用） ５日** **夕方まで**

  **○お斎用の野菜 ６日** **夕方まで**

**(大根、里芋、白菜、ほうれん草、ごぼう、人参、ねぎ など)**

 **○仏婦連絡**

**・月例会　１２月５日（木）８時半～１０時半**

**（報恩講お待ち受けの清掃を主に行います。）**

**・１月例会は、御正忌報恩講に兼ね、お聴聞といたします。**

**◇ご葬儀・ご法事の会場について**

**通夜・葬儀や法事が自宅にて行えない時は、専念寺の本堂、または門徒会館（庫裏二階）をお使いください。また、ご法事後の食事も会館にて行えます。使用料などは設けておりませんので、気軽にお電話・ご相談ください。**

**言葉に育てられる**

**「このお寺に来るとホッとします。四季を通じいつもいいですね。京都に行ったようです。お庭の手入れやお掃除は大変でしょう」。訪問の方がよく言われます。この言葉には、庭仕事に対する労いが込められているようです。庭手入れの熱心な前住職が六十三歳で倒れ、やむなく庭掃除を引き継いでから間もない頃です。前住職の知人が「庭の目立て見事ですよ。ご苦労様ですね」と一言。庭手入れに不慣れな私でしたが、その言葉に清掃の意欲をもらいました。**

**言葉により元気になったり立ち直ったりしますが、反対に傷ついたり争ったりもします。言葉は生きものです。生かしも殺しもするのです。だから、、、、を慎みなさいとは仏教の戒めですが、その口から「南無阿弥陀仏」とお念仏が出るのは、なんと不思議なことでしょう。**

**赤ちゃんが成長する過程で、やがて「ママ」とか「お母さん」とか口にするようになります。呼ばせたのは、赤ちゃんが目覚めていようと眠っていようと、どんな時も「ママだよ」「お母さんだよ」と、呼び続ける母親の愛情ゆえでしょう。そして、赤ちゃんと苦楽を共にしながらお互いに育ち、親も親にならせていただくのです。**

**阿弥陀如来様と私どもの関係もそれに似ています。如来様の願いは私どもが仏になること以外ありません。だから、私どもの申す念仏は、如来さま呼び続けの「南無阿弥陀仏」であり、真実の親の呼び声がそのまま「こだま」して、私どもの念仏になるのです。念仏のあるところ、そこに如来さまがおいでになるのです。人間の相対分別の言葉ではなく、それを超えた真実功徳の言葉「南無阿弥陀仏」によって、私どもは育まれ仏になるのです。**

**瓜生正廣氏**